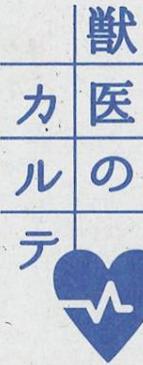


ライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp



75



高島獣医科魚津病院長
(魚津市本江)
長田 雅美

医療とフードの進歩がペットの寿命を延ばしたと言われます。今の世の中、ご飯におみそ汁をかけて…は通用しません。ペットに食べさせるフードは、どんな種類があつて、どんな物を与えたらよいのでしょうか。細かく分類すると「総合栄養食」「間食」「療法食」「その他の目的食」に分類されます。簡単に説明しましょう。

ペットフード



フードを食べる猫たち

ものです。あくまでも「総合栄養食」と表示されたものだけが毎日の基本の主食となり得ます。ドライフードだけでなく、ウェットフードでも総合栄養食の記載があれば主食にできます。私たちヒトで

目的と与え方知ろう

言つところの「食生活は主食、主菜、副菜を基本にバランス良く」をまかなえるもので、このフードと水を与えておけば栄養面では他に何も必要ありません。

②間食…おやつやご褒美用に与

用対応のフードなどがよく知られているでしょうか。療法食を食べているペットには水と療法食以外は与えてはいけません。何でも混ぜると、目的とする療法食の効果が弱まったり、なくなったりする可能性があります。

えるものです。与える回数や量に注意が必要です。おやつでおなかいっぱいにしても、栄養バランスが悪くて食事の代わりにはなりません。ガムやジャーキーばかり食べていると主食を食べなくなることもありますから気を付けましょう。

④その他の目的食…①～③のどれにも該当せず、特定の栄養の調整やカロリーの補給、嗜好性の増進のために与えるフードです。副食、おかずタイプや栄養補助食が該当します。主食にはできません。「一般食」「副食」「ふりかけ」などと表示され、「総合栄養食と一緒に与えてください」と記載されたものもあります。

③療法食…病気の治療を補助する目的で食べさせる主食のフードです。病院で処方され、治療の内容に合わせて栄養成分の量や比率が調節されます。おしっこ、結石対応、アレルギー対応、体重減量

各フードには、ドライタイプやウェットタイプなど、いろいろな種類があります。食いつきが悪いペットにはドライフードにウェットタイプを混ぜて与えるなど、少しでも食べやすいように工夫してあげましょう。